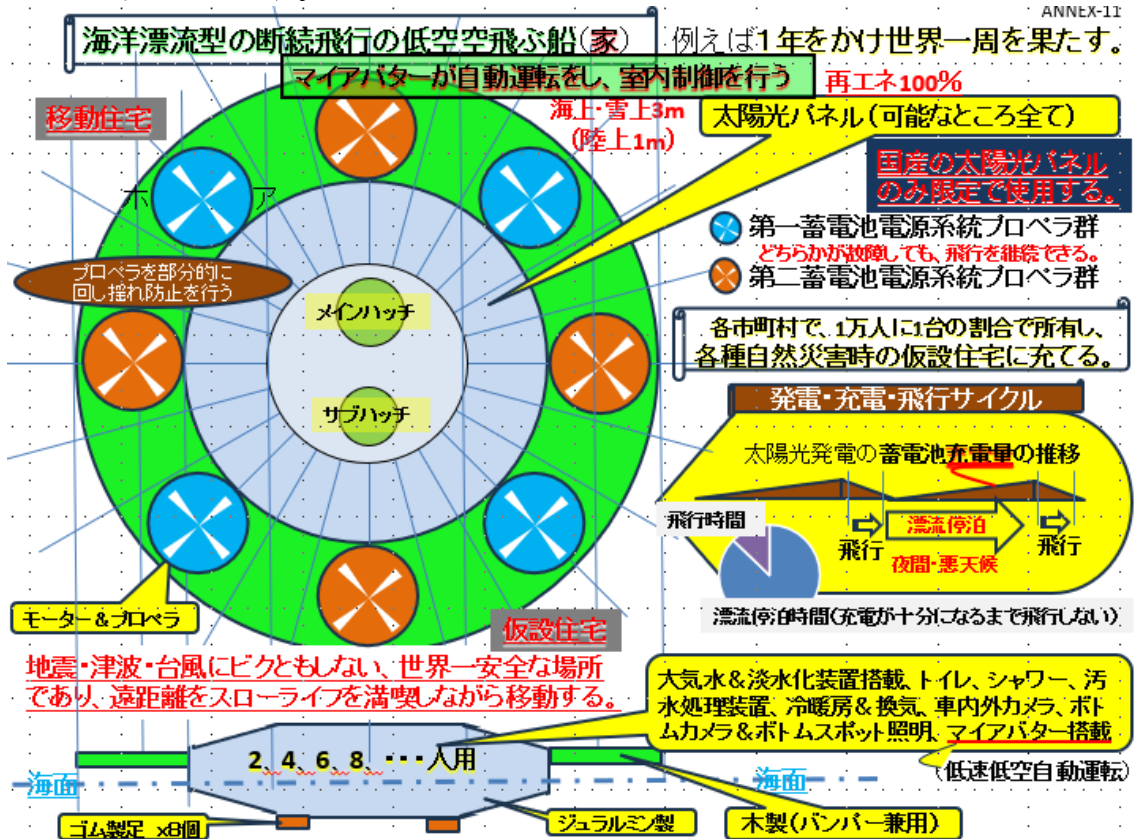


安全な空飛ぶ車の世界的普及で、再び国際競争力一位に帰り咲く

従来の「空飛ぶ車」の表看板を変えることなく、危険な「空飛ぶ車」から、改称して（又は、改称しなくても意識づけだけでもよい）「安全な空飛ぶ車」＝低空・低速（障害物を躲す、あるいは障害物が移動するまで待機する）にし＝**落下してもケガをしない空飛ぶ車にすることで、とてつもなく大きな利益を生むと**考えています。



https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_73e6a5d6429040a296de32dd44c7c663.pdf

(↑の ANNEX-10 ~ 19 をご参照)

離島や無人島（人が住めるようになる）の足として、雪国の冬の足として、また雪国の物流用途として、オーロラ観察や生態観察用途として、テレワークをしながら、安全に世界一周（断続飛行）を試みる老若男女が急増し、また各種観光目的として運用できるので、**超強力な輸出産業になると**考えています。

国民向けのには、全く方針変更がないように見えて実質は大きく変容する。

	公的なネーミング	業界内ネーミング	内容
従来(過去)	空飛ぶ車	空飛ぶ車	安全性への配慮が不十分
25年4月1日	空飛ぶ車	安全な空飛ぶ車(船) (常態化するまで)	全国の市町村で準備開始 (運用面と輸出産業化)
将来的には	空飛ぶ車・船	空飛ぶ船・空飛ぶ車	用途別で細かく分類する。

東京都の場合は他に、小笠原諸島や伊豆諸島への足としても考えられますが、手始めとして、羽田ー豊洲ルート、羽田ーデズニーランドルート、豊洲ーデズニーランドルートを運行するとよいと考え、提案します。

一台で12人乗り、24時間3分毎に離発着しても間に合わない想定され、小グループごとの抽選会を設定し、しばしの空の旅（低空・低速だから面白いという側面もあります。）を楽しめると思います。



(国際競争力UP、GDPUP、給料UP、雇用UP、24時間いつでも安全に移動する)

落下前提&バッテリー切れ前提の「安全な空飛ぶ船」であり、またドローン技術 AI 技術等、既に技術的には十分出揃っており、国策&全国の市町村で協力し、また全国の可能なメーカーが協力し合い、必要に応じ海外メーカーの協力を仰ぐことで、2027年のクリスマス商戦に間に合うかも知れません。

<補足説明>

「安全な空飛ぶ車」＝「人を乗せる太陽光発電の安全飛行ドローン」では、事故故障前提&バッテリー切れ前提の安全性があり、再生可能エネルギー（太陽光発電）：当初は一般電力からの充電併用、特許技術（特許申請中：下記 URL 参照）で守られ、ほぼ日本企業が独占状態になり、全国の市町村様にて、関連の何らかの工場誘致が可能と考えており、地方の活性化、給料大幅UP、GDPの大幅UPが見込まれると考えられます。

<特許草案>

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_dad8da0906074208bb9f4e5cbdd83bc7.pdf

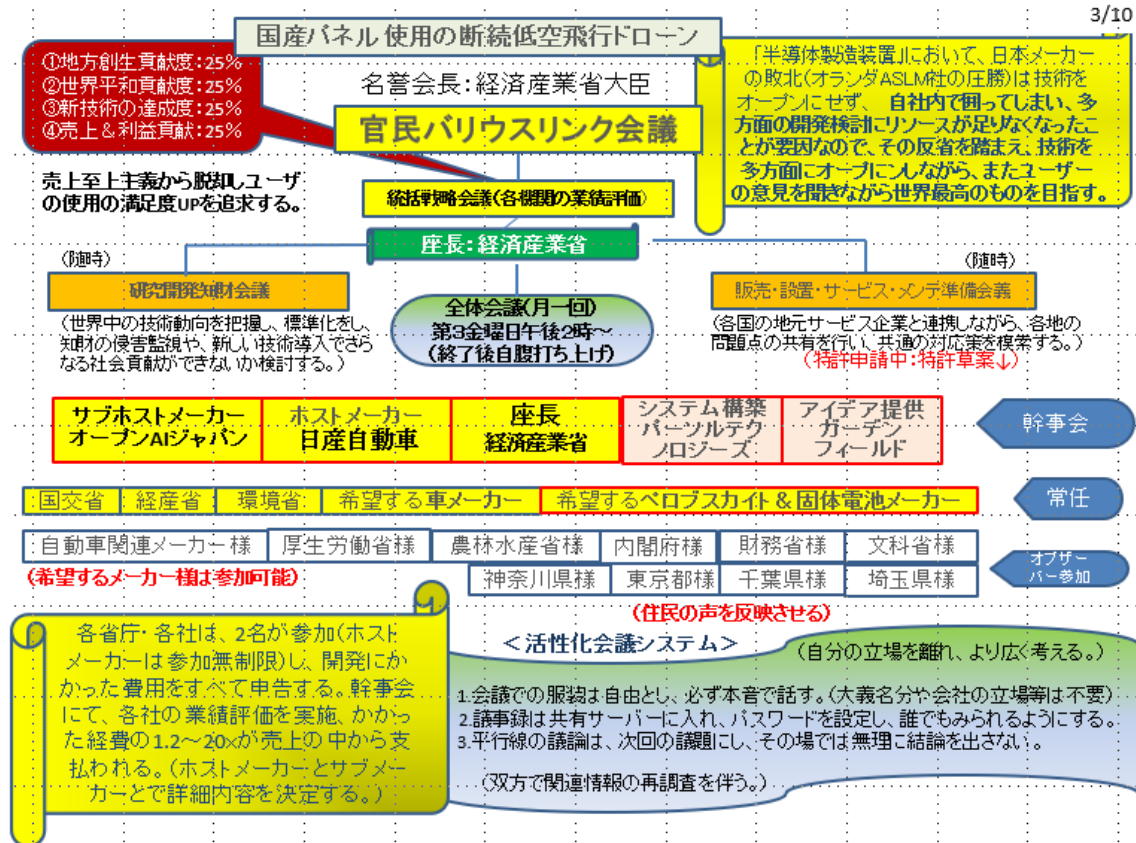
木造人工島で検索をされ、ガーデンフィールドのホームページの中の項目、「断続飛行ドローン特許草案」をクリックでも、同内容を見ることができます

<船酔い防止システム>

「人を乗せる太陽光発電の安全飛行ドローン」は海上での待機時間が長く、小型船として考えた場合に、やはり船酔いが気になる場所ですが、AI技術により、180度方向(=360度の全方位のこと)の波に対し、どのプロペラを回転数いくらかで回せばよいかを瞬時に判断して、波による横揺れを防止できると考えています。(↑船酔いは発生しない)

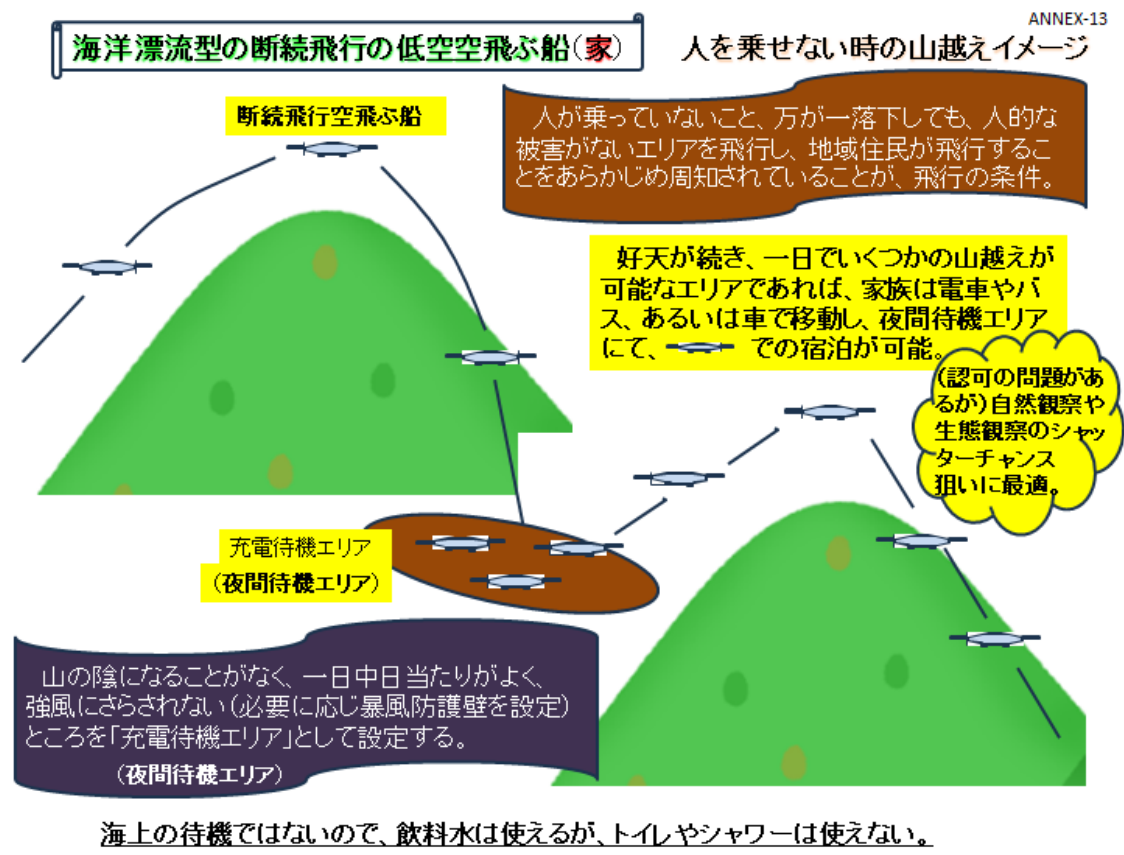
進め方「**連携システム**」として、また、日産をはじめとする、日本の自動車メーカーの衰退(中国に対しAI技術が遅れ、開発・製造・製品機能で劣る)防止策として、「断続飛行ドローンの官民連携バリウスリンク会議」を提案しています。

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_d8d5f9449ffa4cbf935b948b4c291716.pdf



「人を乗せる太陽光発電の安全飛行ドローン」では、人を乗せない時は、落下しても安全なエリアのみを飛行し、また飛行エリアや飛行時間等をあらかじめ、あるいはタイムリーにスマホアプリ等で通知をするようにしますので、鉄

塔などの障害物よりも高く飛行することがあります。（人を乗せている場合は雪上・海上3m、陸上1mが基本）



「人を乗せる太陽光発電の安全飛行ドローン」では、（途中で補給&ゴミ出しが必要ですが）何年でも、再エネ住宅として住めるものになっており、例えば各市町村様にて「復興住宅」としてプールしておき、どこかで自然災害により、復興住宅をすぐに必要としていたら、近隣の市町村様より自律飛行での調達が可能であり、遠方の市町村様からは複数の待機所を経て（何日か後に）、復興住宅が自らやってきてくれます。

「人を乗せる太陽光発電の安全飛行ドローン」は、住居としてや移動手段として、必世界中で必要としており、（当面特許で守られ）日本が独占的に、全国の市町村で製造し、雇用（給料UP）・国際競争力（GDP）UP・そしてとても安全で便利な社会が実現します。

「従来の空飛ぶ車が危険な理由」(詳細資料は次ページに用意しています。)
 撮影用や農薬散布用途等の小型ドローンは、全国で原因不明の落下が頻発しています。(ドローンとは落ちるものという概念があります。)一方で、ミリタリー規格の高価な自衛隊ヘリも原因不明で落下し、死亡事故が時々発生しています。
 従いましてドローンの一種の空飛ぶ車も同様な死亡事故が発生し、危険です。

エアモビリティ事業開発部 様・Cc 丸紅株式会社 総務部 様 CC トヨタ株式会社 様

ご返信をありがとうございます、ガーデンフィールド株式会社の広田です。全国的にドローンの原因不明の落下が頻発しているのに、SkyDrive 様や丸紅株式会社様のホームページ上で、夢を語るのは良いとしても、「安全飛行」に関する記載がないことに驚いています。

私の友人達（トヨタやデンソーの元課長・部長クラスの技術系幹部社員）と「空飛ぶ車」に関する議論をしたことがありましたが、彼らは異口同音に「ばっかじゃないの」と言わんばかりの剣幕で空飛ぶ車を否定していました。（製造現場で苦勞した人達は、空飛ぶ車の怖さを十分に知っています。）

最近、エレベーターで、乗りかごが来てないのに、扉が開いての落下死亡事故がありましたが、逆に、扉が開いたまま「乗りかご」が移動をしてしまい、挟まれての死亡事故が、たまにあります。その後何十万回と再現テストを行うも、再現することはない、ほとんどの死亡事故の原因が不明のままです。

私は、とあるメーカーで、社長からの「クレーム0不良0」の製品を作れとの号令の下、デジカメの製造工程の自動化や作業標準標準化の見直し、徹底した故障解行を行いました。数十機種・各何十万台以上流して、市場故障率：0.01%の壁を破ることができませんでした。

すなわち、電子機器は1万台に1台は故障するものと考えする必要があります。

< 気力十分な若いベテラン作業員でも、たまに作業ミスをするもの・・・ >
過去の話ですが、製品の不具合が発生したというので、工場に監査に行くと、「作業標準の記載内容に不備があった」「作業標準の更新がなされてなかった」等を理由にされていましたが、実際は作業員の単純作業ミスであることが多く「作業員への教育が行き届いていない工場」とされたいよう、あるいはミスをした作業員を傷つけない配慮がなされてきました。

私からの再三のご忠告にも関わらず、大阪万博では、デモ飛行は行っているようですが、「優秀なプロの操縦士」「落ちても安全なエリアのみでの飛行」「パラシートを用意している」「整備が行き届いている」「短時間である」の5条件で成立しているに過ぎません。

将来そのまま商業化されることはありません。

そもそも最近の緊急医療のチームのヘリの転覆、2.5mの高さから畑に墜落した民間ヘリ、しばしば死亡事故の発生する自衛隊ヘリ、そしてオスプレイでの事故履歴から鑑みると、長年のノウハウの蓄積や「ミリタリー規格」の高価で高性能な部品を使っている、落下事故の防止が難しいのに、安定生産の経験のないベンチャー企業ではとても危険で、飛ばせるものにはなりません。

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_eb9c3aae93e747b8a728fdbc0c22773c.pdf